

ぐるめ散歩

そば

有名産地の契約農家から仕入れて自家製粉したそば粉で手打ちの十割そばを提供する専門店で、遠方からも多くの人を訪れ、平成10年にはカーター元アメリカ大統領が来店した。

店主の清水朗さん(61)が長年研究を重ね、全国の産地に出向いて確かめた選りすぐりの契約農家からそばの実を仕入れている。低温貯蔵庫に保管したそばの実を丹念に選別し、店に置いた石臼です毎日ひき、手打ちしている。

そばは、細身で白い十割、やや太め



清水さん

☎3489-0381 東野川4-13-5
営業=午前11時30分~午後8時30分(現在は7時30分) 原則5日・6日・16日・25日・26日休み(土・日曜の場合は変更あり)(8月23~27日は夏期休暇)



志美津や



厳選したそばの実を自家製粉 こだわりの手打ち十割そば

まみのほか、持ち帰り専用の自家製そば粉のシフォンケーキも人気。

土・日曜日に数量限定

で黒い田舎そば、細身で透明感のある粗挽きそば(数量限定)の3種がある。そばつゆはしょう油や本枯節、昆布、しいたけなど厳選した自然素材を使っており、生わかびはサメ皮でおろす。

メニューは各種のせいろを中心に、種類の違う具材が楽しめる三味そばと五味そば、温かいかけそばも各種ある。また、季節に合わせたそばや、洋風の素材を使った変わりそばも好評。そばがき、そば豆腐などのおつ

で提供する島根県奥出雲の絶滅寸前の品種を使った小そばせいろは、清水さんのおすすめだ。

昭和39年創業の店を受け継いだ清水さんは平成11年に改装、24席ある店内は静かで落ち着いた雰囲気。清水さんは「奥深いそばの味と香りを楽しんでください」と話している。

おすすめMENU

- ①シャキシャキ大根そば(桜海老天) ¥1,650 / ②自家製梅干の冷かけ ¥1,230 / 十割せいろ・田舎せいろ・粗挽きせいろ各 ¥860 / 鴨せいろ ¥1,570 / 穴子せいろ ¥1,600 / 五味そば ¥1,630 / 海老天三味そば ¥1,840 / 小そばせいろ ¥1,100 / かけそば ¥860 / 鴨南はんそば ¥1,570 (税込)



オブジェ「こもれびの泉」と人工芝が張られた南口ロータリー中央の広場

狛江駅南口ロータリーに狛江市制施行50周年を記念するオブジェが設置され、6月30日(日)に松原俊雄市長、オブジェを市に寄贈した東京狛江ロータリークラブの高木七生会長、オブジェをデザインした市内在住の空間デザイナーのもちきちかこさん、同クラブの会員など関係者が参加して除幕式が行われた。

「こもれびの泉」と名

付けられたオブジェは高さ110cmで、高さ約150cmの台座に置かれている。中央の直径15cmの青いガラス球を取り巻くように8本の丸い輪と1本の樹が組み合わされているもので、夜はライティングによって7色に変化する。もちきさんによると、中央の球体は調布市のガラス工芸作家の郡和子さんが製作、こもれびを表現し、丸い穴を開けた樹は狛

江の自然を、8本の輪は50年前にあった駄倉、松原、御台橋などの旧町名と字名を表しており、「自然と共存する市民のしあわせがいつまでも続くことを表現した」と話している。樹の穴には、クリスマスオーナメントのようにいろいろな物を飾ることもでき、みんなで作る生きたオブジェにしたいという。

南口ロータリーは、駅南口の活性化と新たな魅力を創るため、中央部分の約430㎡の植え込みのうち、約330㎡を人工芝に張り替える工事が7月初めに行われた。

オブジェを贈った東京狛江ロータリークラブは、市制施行の翌年の昭和46年3月に市内初のロータリークラブとして創立、地域で様々な奉仕活動を行ってき

た。しかし、会員の高齢化と会員数の減少などで活動を続けるのが難しくなったため、解散を決めると共に、最後の事業としてオブジェの制作を企画した。高木会長は「ほぼ市制施行とともに歩んできたので、解散はすごく残念ですが、最後の奉仕活動として後世に残るものが実現できて良かった」と話していた。



オブジェの除幕をする高木会長(左)と松原市長



原料の枝豆の実を取り出す狛江野菜を広める会のメンバー

第二の「枝豆ビール」を開発

農家とブルワリー共同で9月発売

狛江特産品の枝豆を使った新しいクラフトビール(発泡酒)を市内のブルワリーと農家が共同で開発、9月上旬の発売に向け、醸造作業を続けている。

平成24年に枝豆を使った発泡酒「こまえ〜る」を開発した「狛江野菜を広める会」の籠屋秋元商店専務の秋元慈一さん、駒井町で農業を営む松坂諭さん、高橋一真さん、高橋庸之さんの4人が企画、7月から製造に着手した。「こまえ〜る」は狛江市観光協会の推奨品第一号に指定され、人気商品になったが、醸造は新潟市の酒造メーカーに委託しており、今回は原料から醸造まですべてを市内で行うことにした。

材料となる枝豆は、農家の3人が栽培した香りが高い茶豆風味の「湯あがり娘」を使った。秋元商店のブルワリーの設備を使って、同社の江上裕士さんが発泡酒

作りを担当した。「こまえ〜る」は主にゆで汁を使っているが、新商品は実や皮も使い、より枝豆の香りが引き立つよう工夫した。

枝豆20kgを使い約200ℓを約1カ月かけて醸造し、500ml瓶(価格未定)を販売する予定。

秋元さんらは「新しい狛江の味としてたくさんの人に味わってもらいたい」と話している。

問い合わせ ☎3480-8931 籠屋秋元商店。

コロナ退散の願い込め 市役所に七夕絵手紙

絵手紙をつるした七夕飾りが6月28日(日)から7月7日(日)まで市役所2階ロビーに展示され、訪れた市民を



絵手紙の短冊をつるした七夕飾り

楽しませた。

約1mから約3mの長さの違う笹竹をパネルに張り、「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会の委員等がかいた色鮮やかな短冊約300枚をつるした。短冊には、スイカやトマトなど夏らしい絵や文のほか、「コロナ退散」など新型コロナウイルス感染症による自粛生活からの解放を望む切実な願いをかいた短冊も目立った。

子どもの居場所を開設 10~13日に中央公民館

学校が完全な休みになる10日(日)~13日(水)の午前10時~午後5時に、子どもの居場所を作る「夏の子ども・中高生居場所事業」が中央公民館で実施される。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止されたが、1年ぶりに復活する。

対象は小学生から高校生で大学生も参加可。テーマは「学ぶ・遊ぶ」「食べる」「体験」。「学ぶ・遊ぶ」は勉強と遊びのフリースペースを用意、こまえ学習サポート

プロジェクトのスタッフが勉強をサポートするほか、スクラッチアート、紙飛行機などの遊び道具で自由に遊べる。定員は「学ぶ」が12人、「遊ぶ」が20人。

「体験」は、10日(日)が「消しゴムはんこに挑戦!」(対象小・中学生、定員10人、参加費500円)、11日(月)が「グルーガンを使って遊ぼう!」(15人、500円)、12日(火)が「子どもと楽しむ☆DIY講座」(小学

生以上の親子5組、1,500円)、13日(水)が「夏休み子ども絵手紙教室」(小・中学生、14人、無料)。いずれも4日(日)までに教育委員会のホームページなどから申し込む。いずれも申込多数の場合抽選。

生以上の親子5

組、1,500円)、13日(水)が「夏休み子ども絵手紙教室」(小・中学生、14人、無料)。いずれも4日(日)までに教育委員会のホームページなどから申し込む。いずれも申込多数の場合抽選。

「食べる」は、子ども食堂などを行っている5団体で構成する「ごはんとうちの居場所の連絡会」が、11日(月)豚どん、12日(火)夏野菜あまくちドライカレーと希望者にすいとんを午前11時30分~午後1時に各先着50食提供。13日(水)は午後1時~2時に手作りパン先着100食を持ち帰りで提供する。いずれも無料で予約は不要。

問い合わせ ☎3488-4411 中央公民館。

狛江フェスティバル 参加事業者を募集

9月11日(土)・12日(日)に催す「狛江フェスティバル2021『街巡り』」の出店を募集している。

主催者の狛江フェスティバル実行委員会は、昨年は新型コロナウイルス感染症防止対策のためオンラインで開催したが、今年も昨年に続いて会場の利用を断念、市内を巡って狛江の新しい魅力を発見してもらう方式で実施することにした。

フェスティバルは、参加する事業者が当日限りの商品やメニューの限定品を販売するほか、子ども向けに駄菓子もらえるスタンプラリーも一部の事業者で行う。

出店できる対象は市内の事業者で、費用は無料。申込締切は8月5日(日)。

申し込み・問い合わせ ☎3480-9367 実行委員会。